

平成 19 年度 岐阜県大垣市

2007 年 12 月 8 日 (土)

史跡 昼飯大塚古墳 (第 11 次調査)  
大塚 1 号墳  
東町田遺跡 現地説明会資料



昼飯大塚古墳 第31トレンチ 葺石と墳丘



大塚1号墳 遠景



昼飯大塚古墳 第29トレンチ 葺石検出作業



東町田遺跡 方形周溝墓SZ21の土器



東町田遺跡 方形周溝墓群と環濠

大垣市教育委員会

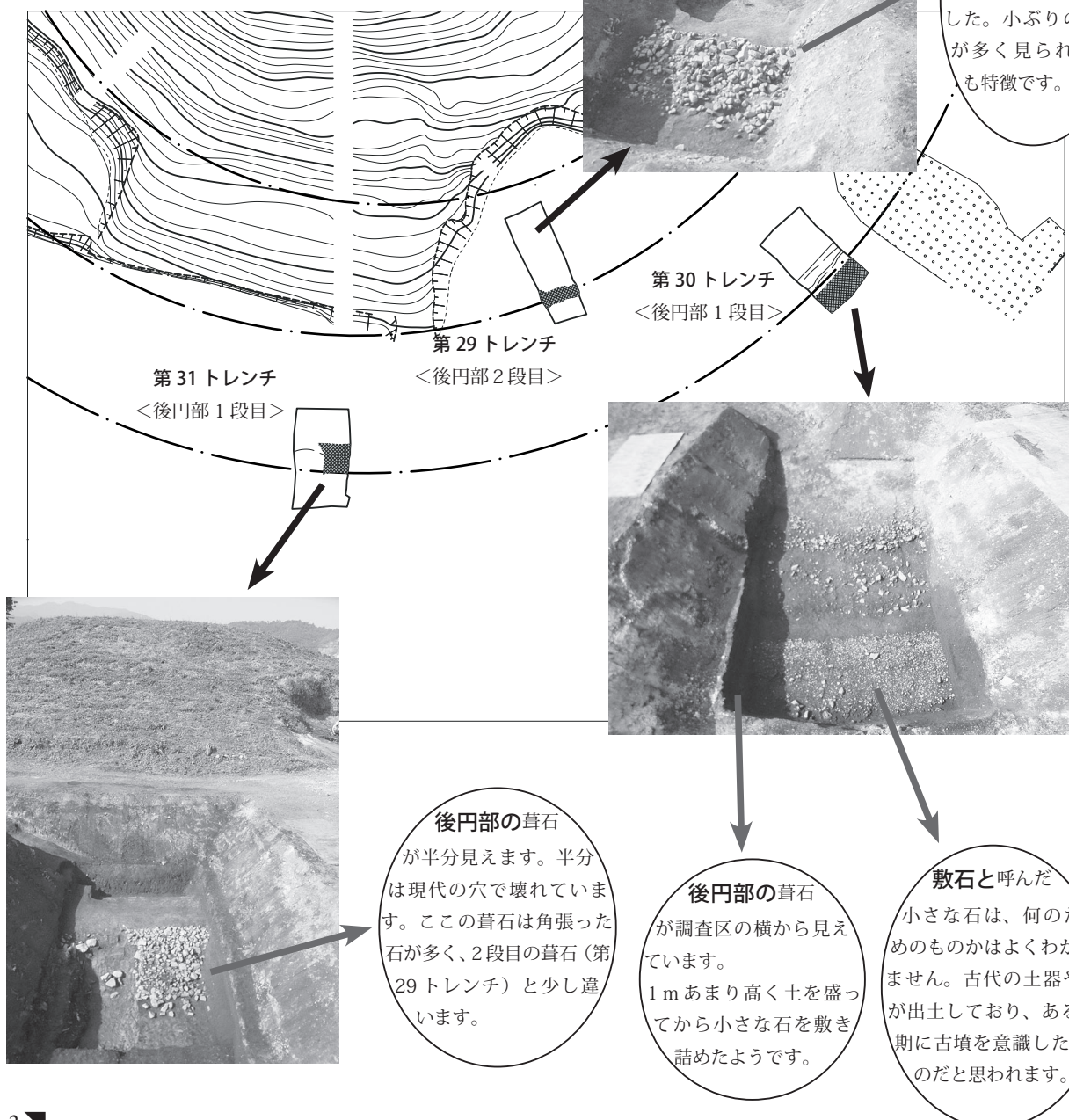
# 史跡 昼飯大塚古墳

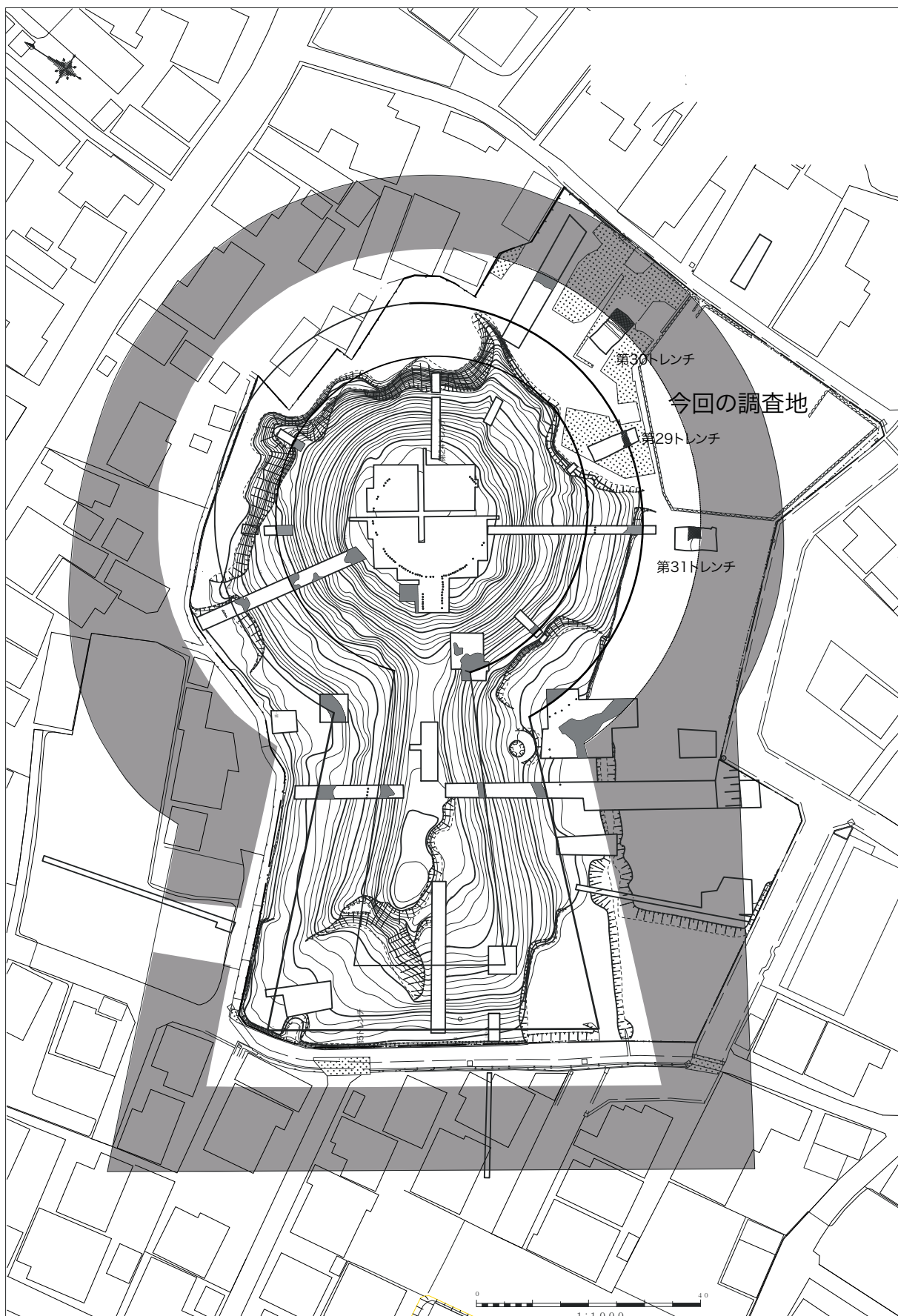
第 11 次調査

現地説明会資料

第 11 次調査は周壕調査を含めた後円部の確認調査です。これまでに推定した古墳本来のかたち（右図参照）を検証するための最後の調査でもあります。今回はかつて建物などが立ち並んでいた下を調査し、3m から 4m にも深いところで葺石が埋もれていることがわかりました。

3箇所を観察ポイントを参考にしながら、遠い 1600 年前の姿を思い浮かべてみてください。





## 大塚 1 号墳

### (1) 遺跡の概要

総数 6 基（内 4 基は消滅・6 号墳は所在地も不明）からなる大塚古墳群に含まれる大塚 1 号墳は、これまでに正式な調査が行われていないため、墳形や正確な規模などは不明です。現状から測ると直径 15 ～ 18m の墳丘を持っていますが、後世にかなりの改変を受けているとみられます。墳頂部から採集された埴輪片などから 5 世紀代の古墳と考えられています。東隣の公民館東側には大塚 2 号墳（円墳・直径 15.9m・高さ 0.5m）があり、この 2 号墳と合わせて「二ツ塚古墳」とも呼ばれています。なお、大塚 1 号墳を含めた周辺は古代の遺跡である東畑遺跡が広がっています。



周辺の遺跡分布図（1：5,000）

### (2) これまでの調査概要

これまでに発掘調査が行われたことはありませんが、平成元年度に墳頂部で形象埴輪片（盾）が採集されています。平成 12 年度には墳丘測量調査を実施しています。

### (3) 今回の調査概要

- ①調査期間 11 月 12 日～ 12 月 21 日（予定）
- ②調査面積 22 m<sup>2</sup>
- ③調査目的 まちづくり交付金事業による公園整備に伴う範囲確認調査で、今年度は墳丘北側部分での周壕の確認を目的としました。
- ④調査成果 幅 4m、深さ 1.3m の溝を確認しました。溝内からは古墳に伴うような遺物や、古墳の時期を決めるような遺物は出土していません。一方で奈良時代以降の須恵器・土師器・布目瓦が数多く出土しました。また製鉄や鍛冶に関する遺物である鉄滓や羽口が出土しています。鉄滓はかなりの数が出土しました。
- ⑤調査の意義 幅 4m の溝は方形にめぐるため、大塚 1 号墳は方墳である可能性が高いです。しかし、溝内からは古墳に伴う遺物（埴輪や土器など）が全く出土せず、この溝が大塚 1 号墳の周壕であるかは、現段階では断定はできません。発掘した範囲からは墳丘の盛土は確認できませんでした。大塚 1 号墳の性格の解明は、墳丘部分の調査を予定している来年度に期待されます。溝内より出土した多量の鉄滓は製鉄や鍛冶に関連する遺構が付近に存在する可能性を示唆するもので、注目できる遺物です。鉄滓の時期は、同時に出土した遺物から 8 世紀後半～ 9 世紀前半のものと考えられます。

### (4) 今後の計画など

平成 20 年度にも墳丘部分の発掘調査を予定しています。



大塚 1 号墳全景（南から写す）



## 東町田遺跡

調査地 大垣市昼飯町字東町田

調査期間 平成19年10月29日  
～12月28日(予定)

調査面積 約1,300㎡

### 遺跡の概要

東町田遺跡はこれまでの調査(のべ約6,300㎡)により、弥生時代中期・古墳時代初頭・同後期を中心とした遺跡であることが判明しています。特に弥生時代中期には、集落と推定される部分を囲む二重の環濠と、その周囲に展開する墓域が確認されています。墓域は「<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓」と呼ばれる周囲に方形の溝をめぐる墳墓から構成されており、9基の存在が確認されていました。



西からみた方形周溝墓SZ 17

今回の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓5基が新たにみつき、この地点では9基以上の周溝墓が群をなしていることが判明しました。外環濠SD05の東側に方形周溝墓からなる墓域が形成された様子がより明確になってきました。またこの墓域が東にも拡大する可能性もでてきました。

### 調査の概要

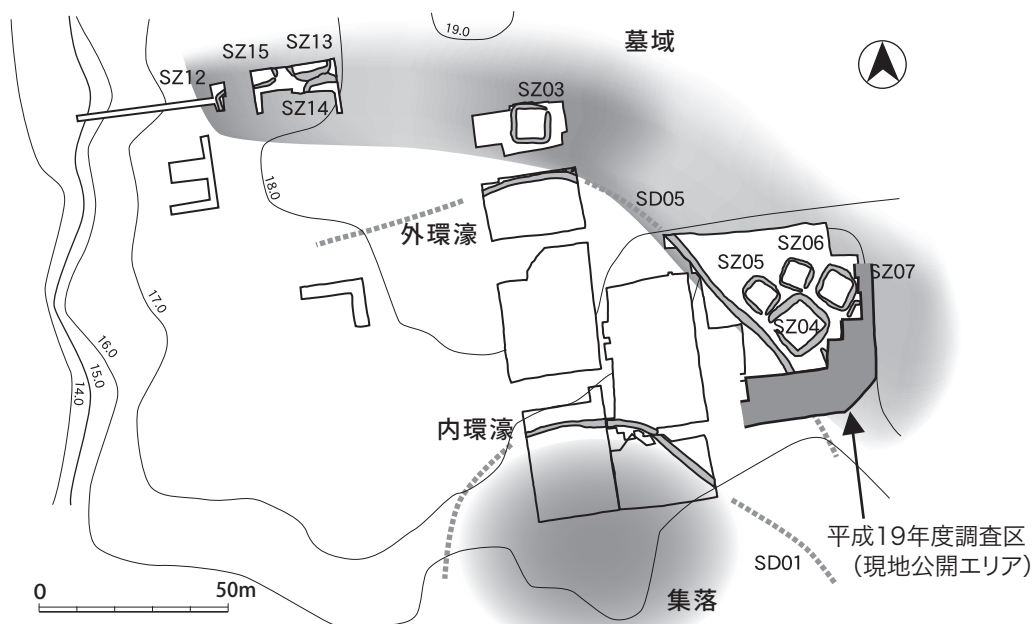
今回の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓5基が新たにみつき、この地点では9基以上の周溝墓が群をなしていることが判明しました。外環濠SD05の東側に方形周溝墓からなる墓域が形成された様子がより明確になってきました。またこの墓域が東にも拡大する可能性もでてきました。

ほぼ全形の判明するSZ 17は約9m四方の大きさがあり、周囲にめぐる周溝は幅1.0～1.7m前後、深さ0.1～1.0m前後の規模です。他の周溝墓は墳丘の規模が5m前後と推定され、SZ 17よりもやや小

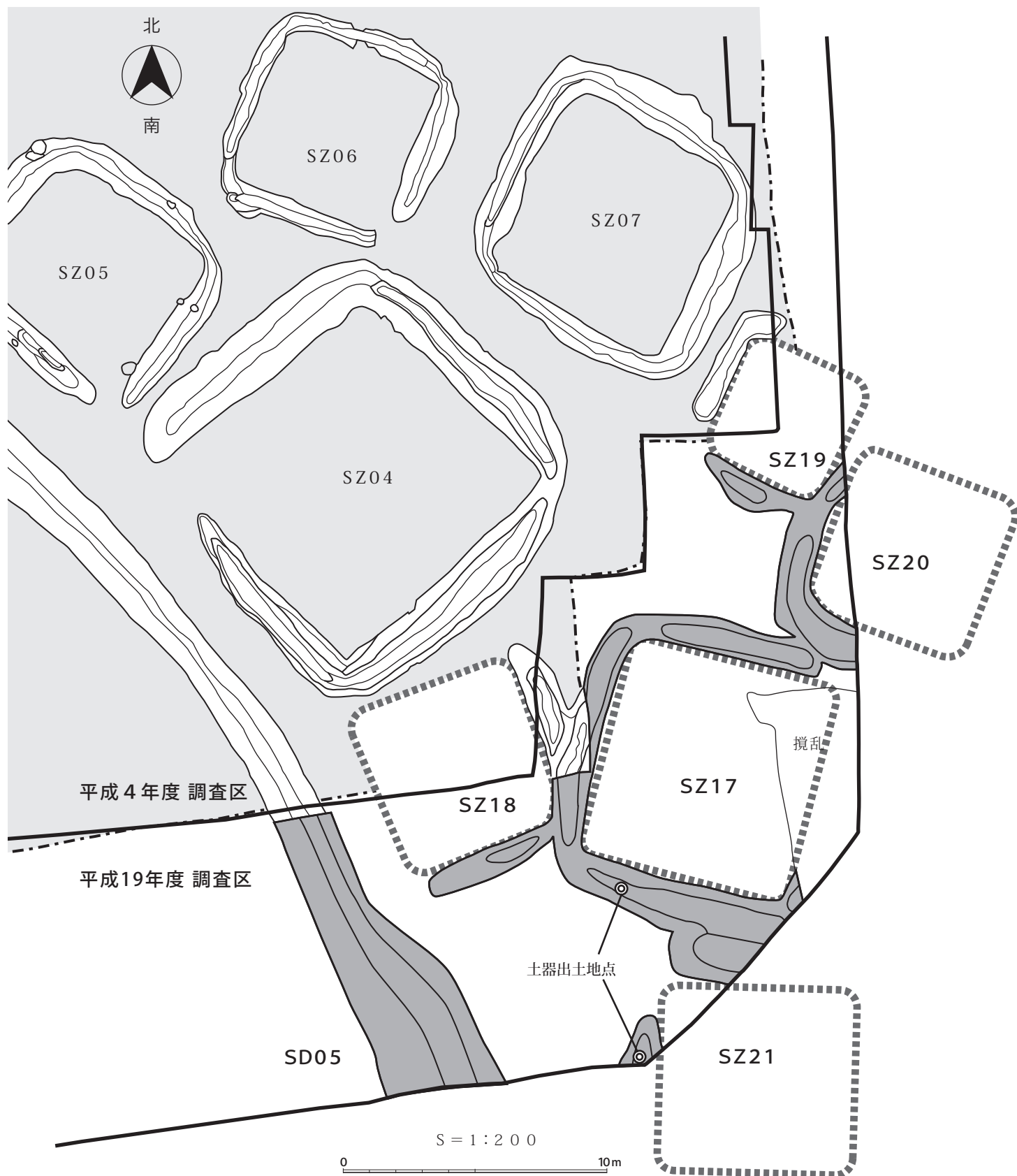
規模なものようです。

また平成4年度に調査した隣接地の状況と比べると、隣接する方形周溝墓の周溝が重なったり共有されたりする様子が認められ、小型の方形周溝墓が密集する傾向にあります。

本来、方形周溝墓に存在した盛土や埋葬施設は既に消失していますが、周溝からは土器が出土しました。弥生時代中期の壺類が出土しており、胴部下半に意図的に穴をあけたお供え用の土器(供献土器)もあります(表紙:SZ 21)。



弥生時代中期の東町田遺跡と現地公開エリア(1:2,000)



これまでの調査で確認された遺構（SD 05・SZ 04～SZ 07）と  
今回の確認された遺構（SD 05・SZ 17～SZ 21）

## 現地説明会 三会場周辺案内図

昼飯大塚古墳・大塚1号墳 (徒歩2分) 大塚1号墳  
 昼飯大塚古墳・大塚1号墳 (徒歩13分) 東町田遺跡

